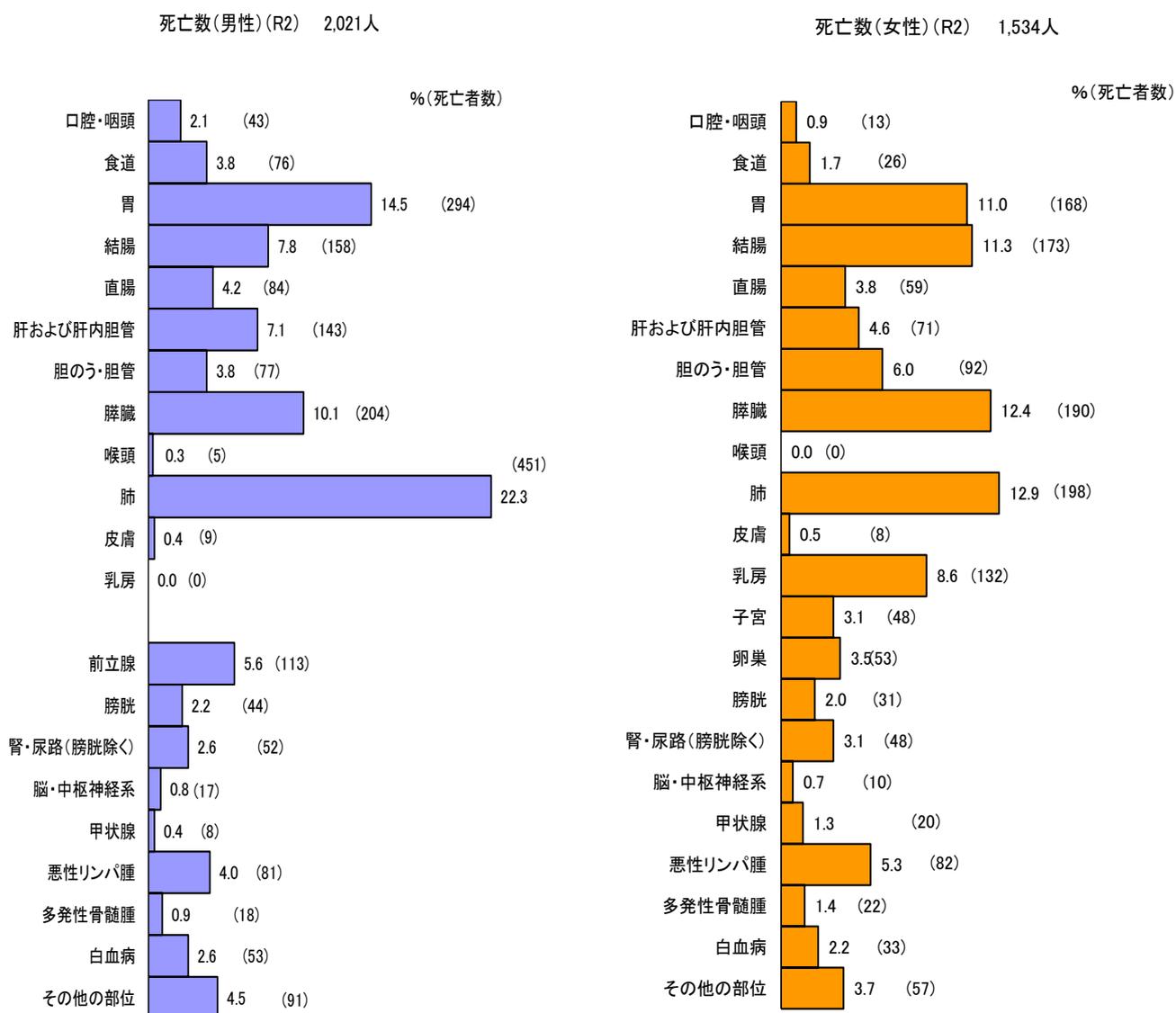


## IV. 令和2年の死亡概要

### 1. 富山県のがんの死亡の概要

令和2年に富山県においてがんを原因として死亡した者は、男性2,021人、女性1,534人、合計3,555人であった。部位別の死亡数は、男性は肺に続き、胃、大腸（結腸・直腸）、膵臓、肝および肝内胆管が多く、女性は、大腸（結腸・直腸）に続き、肺、膵臓、胃、乳房の順に死亡数が多い状況であった（図10）。

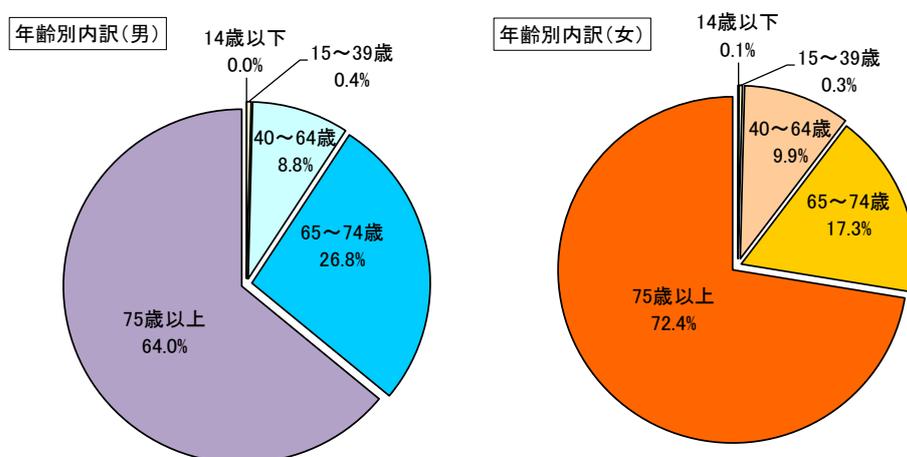
図10 部位内訳（R2年、表9から作成）



## 2. 年齢別に見たがんの死亡

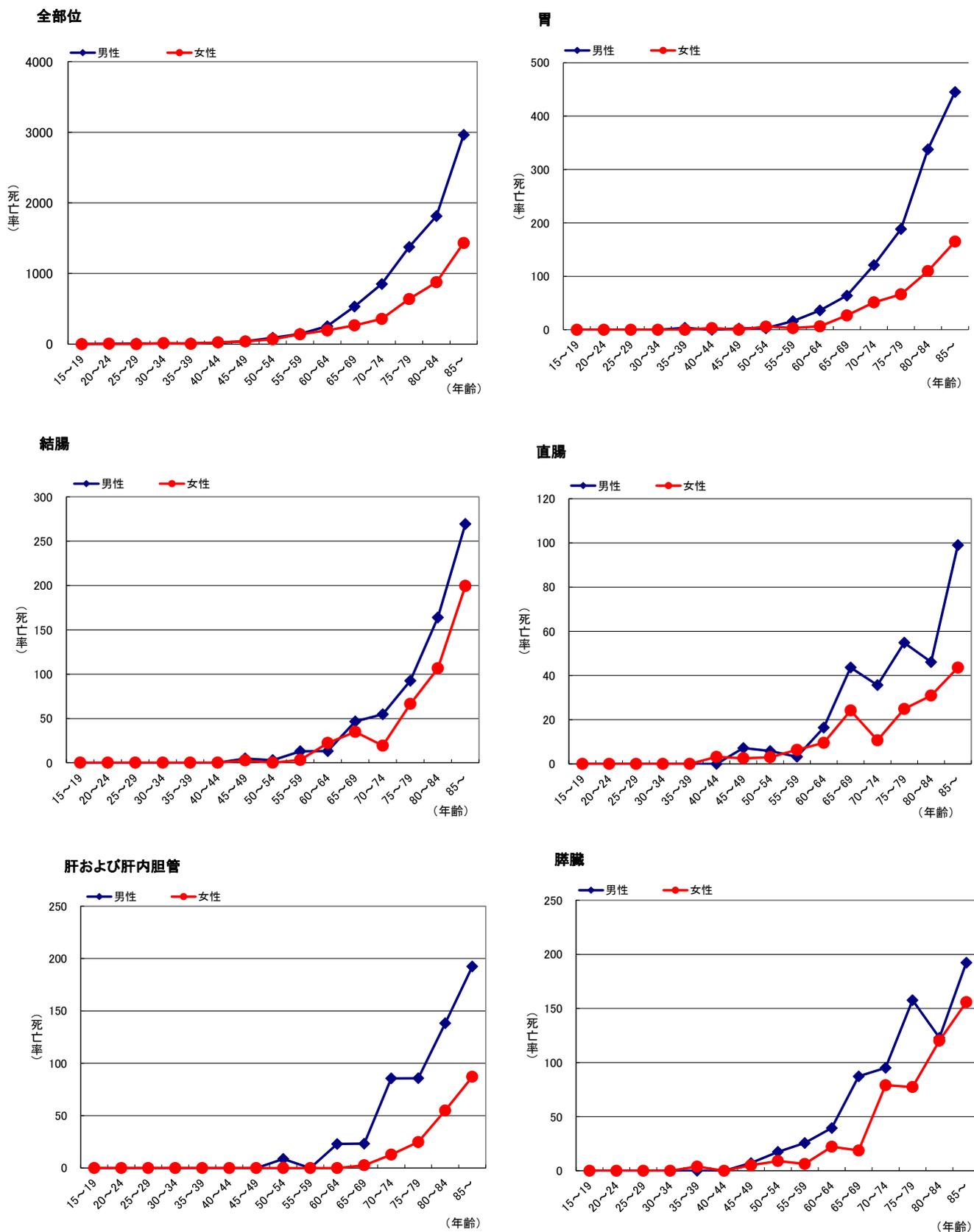
令和2年に富山県でがんで死亡した者のうち、男女とも65歳以上が約9割を占めた(図11)。部位別年齢階級別死亡率では、ほとんどの部位において、年齢が高くなると罹患率が高くなるため、年齢とともにがんによる死亡率も高くなっていった。また、各年齢階級別死亡率は、男性のほうが女性よりも高い傾向がみられた(図12)。

図11 年齢内訳 (R2年、表10から作成)

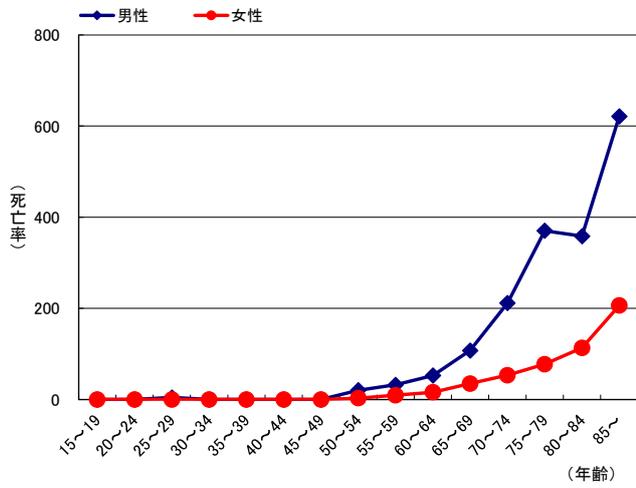


年齢階級	男性(人)	女性(人)
14歳以下	1	1
15-39歳	8	5
40-64歳	177	151
65-74歳	541	266
75歳以上	1,294	1,111
合計	2,021	1,534

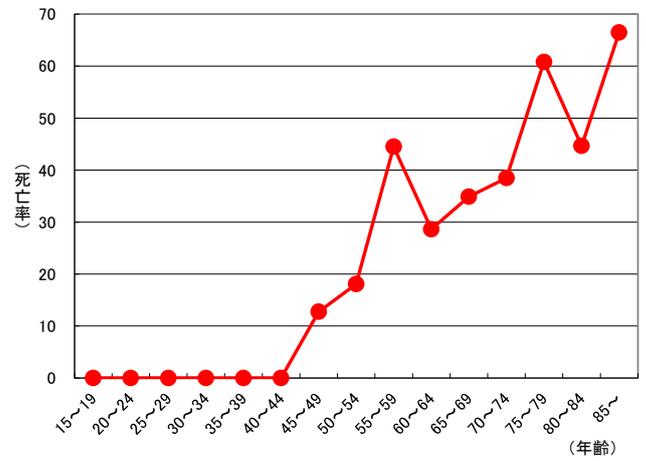
図 12 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対（R2 年、表 11 から作成）



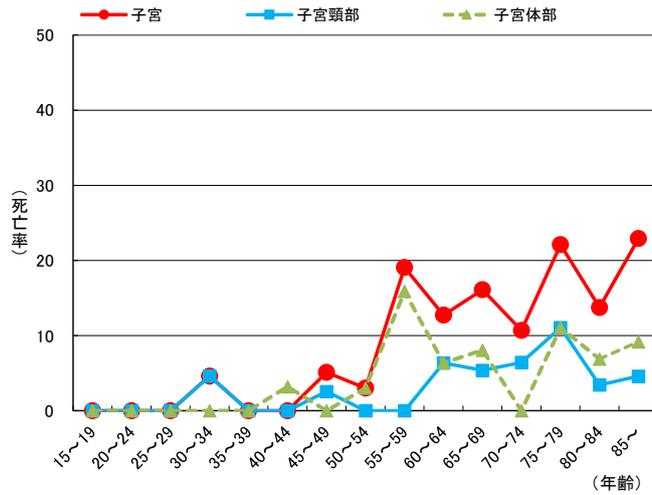
### 肺



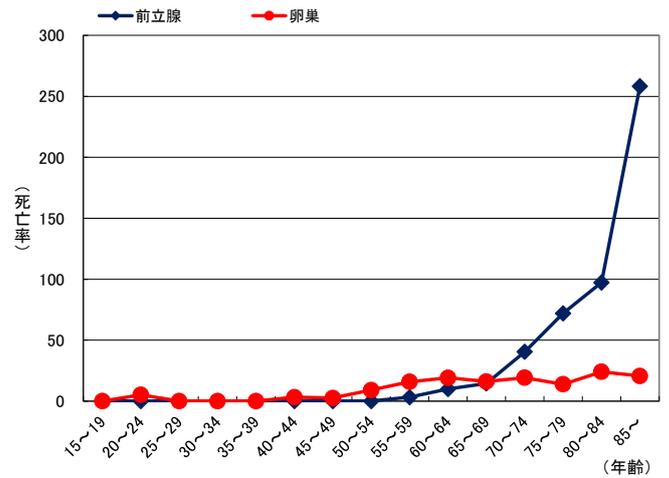
### 乳房(女性)



### 子宮



### 前立腺・卵巣

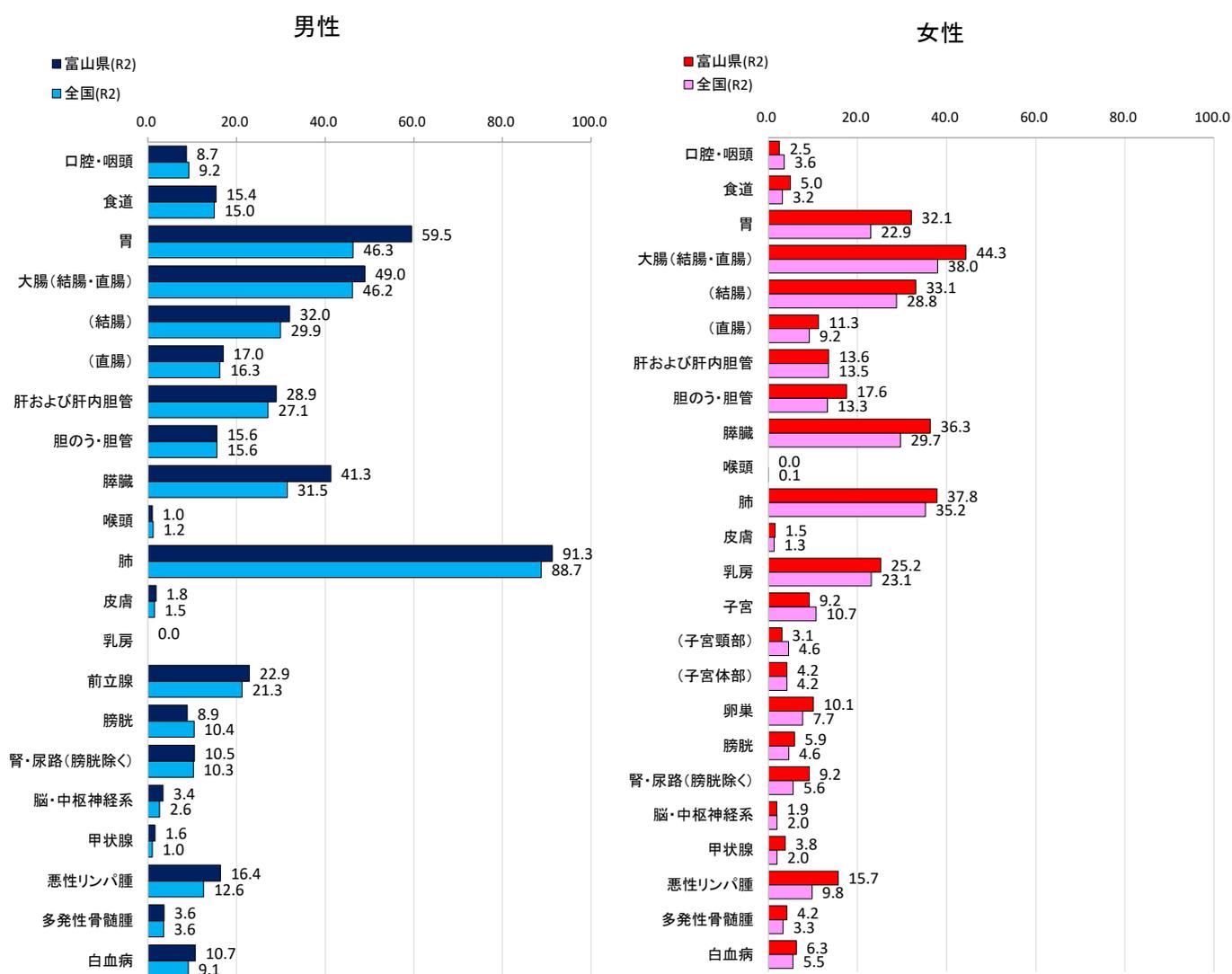


### 3. 富山県のがん死亡の特徴

令和2年の本県と全国の粗死亡率を比較すると、胃、大腸、膵臓、悪性リンパ腫が男女ともに全国値よりも高い（図13）。

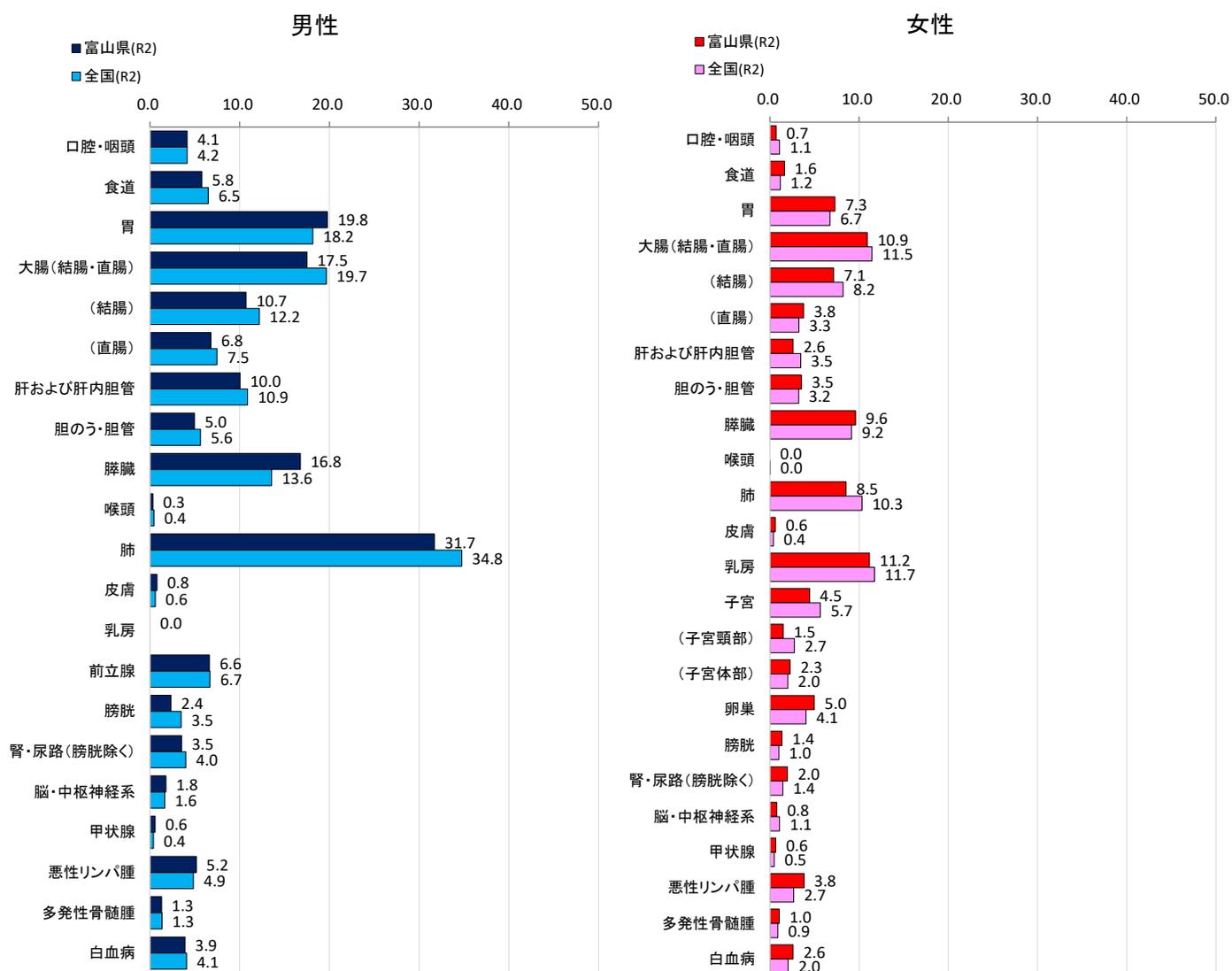
年齢調整死亡率を比較すると、男性の胃、膵臓、女性の卵巣、悪性リンパ腫が全国値よりも高い。一方、男性の大腸（結腸・直腸）、肺、女性の肺は全国値よりも低い（図14）。

図13 部位別粗死亡率：人口10万対（R2年、表9から作成）



全国値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958年～2021年）」から引用した

図 14 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対（R2 年、表 9 から作成）



全国の値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958年～2021年）」から引用した